

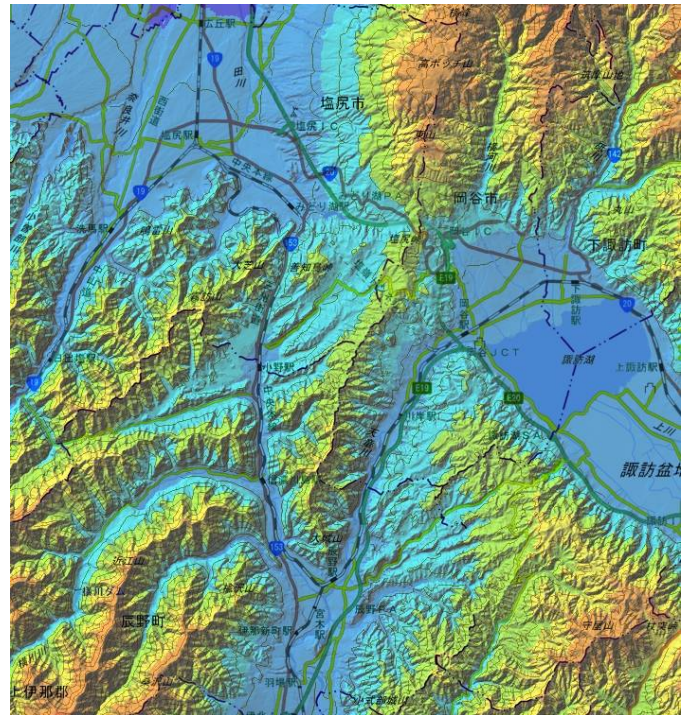
韮崎駅から小淵沢駅にかけての中央本線車窓には、左側に南アルプス、右側に茅ヶ岳(かやがたけ)や八ヶ岳連峰が見えます。茅ヶ岳はよく八ヶ岳と見まちがえられるので、「ニセ八ツ」とも呼ばれます。



しかしカーブの多い中央本線、一瞬左車窓にも八ヶ岳が見えました。実は当初の予定では、小淵沢で小海線に乗り換えて、清里か野辺山あたりまで行って、そこをこの日の「終点」にしようと思っていました。しかし、この列車は「松本行き」です。ふと、もう少し遠くまで行きたくなって、小淵沢で列車を捨てるのが惜しくなり、そのまま乗り続けることにしました。鉄道旅行では「下車する」ことを「捨てる」と言います。



小淵沢あたりでは、線路ばたに残雪が見えるようになりました。中央本線でも一番標高の高い地域にさしかかっているのです。



上諏訪、下諏訪、岡谷などの諏訪湖沿岸の駅を過ぎると、中央本線は中央分水嶺を通過します。「中央分水嶺」というのは、太平洋側の水系(川)と日本海側の水系を分ける山脈や峠を結んだ線のことです。現在の中央本線では、「岡谷駅」と「みどり湖駅」の間の「塩尻峠(しおじりとうげ)」ということになります。岡谷側が諏訪湖(諏訪盆地)からの天竜川水系(太平洋)、みどり湖側が、松本盆地から長野盆地(善光寺平)を経る信濃川水系(日本海)です。



現在岡谷~みどり湖間は「塩嶺(えんれい)トンネル」という、約6kmのトンネルで短絡されています。この区間には断層があり、トンネル掘削は困難とされ、かつては辰野駅(たつのえき)まで南に大きく迂回していました。1982年(昭和57年)のトンネルの開通で、実に16kmも短縮され、特急「あずさ」も20分も早くなりました。しかし、かつて辰野駅に停車していた急行や特急は、今は一本もありません。